

留学先大学： パリ第7大学留学先での所属学部・研究科： 社会科学部（Science Sociale）留学先での在籍身分： 学部生3年（Licence3）留学期間： 2013 年 9 月～ 2014 年 6 月神戸大学での所属学部・研究科： 国際文化学部学年（出発時）： 学部3年本報告書記入日： 2014 年 6 月 30 日**授業について**

留学期間に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習, 復習, テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	仏語文法	Mme.Campos	2	3	15	中間+期末テスト
2	仏語オーラル	Mme. De Lilly	2	3	15	中間+期末テスト+発表
3	仏作文	Mme. Campos	2	3	15	毎週仏作文の添削あり 中間+期末テスト
4	Migration et relations interethniques	Mme.Cognet M.Timera	3	3	50	期末レポートのみ
5	Histoire de la sociologie	M.Haghighat	3	3	50	中間レポート+期末テスト
6	Opéra, théâtre musical, espaces scébuques	M. Kaltenecker	3	3	30	中間レポート+中間テスト+期末レ ポート+期末テスト
7	Sociologie Politique	Mme. Tassin	3	3	50	中間レポート+期末レポート
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

一学期は、授業は9月末から始まり、11月初めに中間テスト、12月末または1月初めに期末テストがあります。この二つのテストと、レポートまたは発表などが成績評価の対象になります。二学期は1月末に始まり、3月初めに中間、5月中旬に期末、対象者は6月に再テストがあります。

語学の授業はレベルごとに振り分けられ、少人数制です。

その他各専門の授業は大教室で行われる講義の授業を取っています。授業は前半と後半で講義形式とゼミ形式に分かれていますが、教授によってはこれをはっきり分けず話し続けていることもあります。

現地学生は、授業の途中にわからないことがあればその場で質問したり、それに対して教授でなく別の生徒が答えたりととても積極的です。大教室での授業でも議論が始まることも日常茶飯事で、日本での授業との違いを感じます。

専門をフランス語で授業中に全て理解するのは難しいので、授業を録音し、友人にノートを貸してもらっていました。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃： 13万・住居費：（月額） $\frac{2万(住宅補助金差し引き)}{10}$ ×（留学月数） $\frac{10}{10}$ ヶ月 = 20万・食費：（月額） 2万 ×（留学月数） $\frac{10}{10}$ ヶ月 = 20万・保険料： $\frac{11万+3万(OSSMAのセット保険+フランスの保険LM)}{10}$ - その他： ビザ申請のための諸費用、雑費、交遊費など合計： 150万 （留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

パリ第7大学の特徴として、日本語学科の存在があります。パリ到着直後、右も左もわからない中、寮や大学、銀行などの煩雑な手続きを日本語学科の学生が手伝ってくれました。毎週彼らと日本人学生がゲームなどして交流する会があり、友人の輪もそこから広がっていきまし
た。一緒に出掛けたり言語を教えあったりしています。パリの他の大学に比べ日本人留学生にと
って心強い環境であると言えます。

大学では社会科学部に所属していましたが、どの学部の授業も取ることができます。社会学の
歴史、フランスにおける移民問題、社会政治学、ワグナーのオペラ考察、フランス語の授業な
どを取っていました。特に専門はフランス語で授業についていくのは難しかったです。授業
の録音を後で聞き返し、友人にノートを借りたり添削してもらったりしてなんとか乗り越えま
した。様々な文化的背景を持った人が集まる「現場」パリで移民について学ぶのは実感を伴い
大変面白かったです。また、授業では大教室でも学生から活発な発言があり、そういったエネ
ルギッシュな授業、学生と交流するのもよい刺激になりました。

生活面では、パリは交通手段が発達し、美術館や博物館、教会などたくさん見所があるう
え、そういったところではたいてい学生割引があるので、アクティブな生活ができる場所
です。お金に関して言えばパリは物価が高いので円安が進んだ時には少し生活が厳しくなりまし
た。

最初から最後まで悩まされたのが、フランス語です。できるに越したことはありません。渡
航前は3ヶ月も経てばなんとかかなっているだろうと思っていましたが、実際のところ10ヶ月
経った今でもまだまだだと感じています。とにかく積極的に友人と会ってできる限り話す機会
を作り、映画や音楽を通してフランス語に触れるようにしていました。授業の内容を理解する
ためにも渡航前からよく練習しておくのが理想的です。仏検、DELFI、TCFなどの検定を受ける
のも勉強する良いきっかけになるでしょう。